

## 令和 8 年度 県立潮来高等学校自己評価表

目指す学校像	人間性豊かな「自立した生徒・自走できる生徒」の育成 ～どのような時代であっても一生涯、自立して主体的に判断・行動できる人間を育成する～		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	地域社会に貢献でき、人間性豊かで自立して主体的に判断・行動できる人材	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	学科や地域の特色を生かした学習活動により基礎学力の確立と、社会との接続を意識したキャリア教育による生徒の進路希望実現	
	「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、毎日の学校生活に「一生懸命・楽しく根気強く」取り組むことができる生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>基礎学力の定着と学習習慣の確立をめざし、丁寧な学習指導に努めており、少しずつ成果が出てきている。学習意欲を向上させるために、授業・課題・考査の取り組み方などについてさらに指導の工夫・改善に努め、自ら学ぶ意欲を喚起する必要がある。</p> <p>令和 7 年度の進路決定率は 95.8% であるが、第一志望が叶わない生徒もいる。面談や進路行事、LHR、総合的な探究の時間を活用するなど学校生活のあらゆる場面で生徒の自己肯定感を高め、目標をもち、適切な進路選択ができるよう、進路意</p>	1 基礎学力の定着 ～学習習慣を確立させる～	<p>① 「主体的・対話的で深い学び」について研究し、全ての授業で ICT も活用しながら生徒の活動・体験を盛り込んだ指導の実践に努め、インプット型学習からアウトプット型学習への転換を図る。</p> <p>② 個の適性・資質・進路希望に応じた学習指導の充実を図り、「個別最適な学び」を支援する。</p> <p>③ 授業と課題等を結び付け、自主的・自律的に学ぶ姿勢を育み、家庭学習時間 0 分の生徒をなくす。</p> <p>④ アンケートの授業に関する全項目で満足度 87% 以上をめざす。</p>	
	2 社会を意識した キャリア教育の推進 ～ルールやマナーを遵守し 品格ある態度を育てる～	<p>① 適時に適切な進路行事を実施し、勤労観・職業観を育むとともに社会性を養う。</p> <p>② 丁寧な個別面談を通して、社会との関わり方を考えさせ、将来の進路設計を促す。</p> <p>③ 進路決定率 100% を実現し、就職指導に加え進学指導にも力を注ぎ、4 年制大学・短大進学 15 名以上の合格をめざす。</p> <p>④ キャリア・パスポートの活用により、人間関係形成・社会形成能力等を育成し、自己実現につなげる。</p>	

別紙様式2 (高)

<p>識の高揚を図り、家庭との連携も深めていく。</p> <p>生徒支援に際し、丁寧に支援の段階を踏むことで、生徒は概ね落ち着いた状況にある。しかしながら、一部に規範意識が欠如した生徒もいるので、さらに生徒観察や声掛けをし、個に応じたきめ細かく丁寧な指導や支援を心がけ、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上をめざしていく。</p> <p>令和7年度の部活動加入率は24%程度にとどまっており、生徒会活動や委員会活動、学校行事に対して消極的な生徒もいるため、様々な活動への自主的・積極的な参加を促し、自信をもたせ、生徒個々の人間的成長に繋げる場を創り出していく。</p> <p>働き方改革については、教員の年齢構成が不均衡な状況もあり、勤務時間超過の傾向もみられる。ベテラン教員と若手教員とでOJTを実施し、仕事上のスキルを継承し改善を図る。</p> <p>授業改善については、改善・改革の必要性が強く認識され、研修・研鑽に励む姿勢がみられる。全職員・各教科で「主体的・対話的で深い学び」について校内研修の機会を設け、授業改善への意欲を高め、実践していく。</p>	<p>3 豊かな人間性の育成 ～多様な学校行事や部活動・校外活動を通して人としての成長を促す～</p>	<p>① 家庭との連携を深め、欠席・遅刻・早退を減らし、基本的な生活習慣の確立をめざす。</p> <p>② 生徒の心情理解を図り、信頼関係を築きながら生徒指導に当たり、特別指導件数を昨年度以下に抑える。</p> <p>③ 生徒とのコミュニケーションを大切にし、登校指導や学校行事、委員会活動など学校教育活動全体を通して、「豊かな心」を養い、いじめの早期発見・早期解決に努める。</p> <p>④ 部活動加入率30%以上をめざし、部員確保し継続的に活動可能な体制づくりを行う。</p>	
	<p>4 学科や地域の特色を生かした教育の充実 ～学科や地域の特色に応じた活躍の場を創出する～</p>	<p>① 学科や地域の特色を踏まえ、実社会・実生活との関わりを重視した体験・探究活動を設定する。</p> <p>② 地域の行事やボランティアなど生徒が積極的に外部と関わる機会を創り出す。</p> <p>③ 検定試験や資格取得、課題研究などへの取り組みを推奨し、生徒が自主的に学ぶ姿勢を引き出す。</p>	
	<p>5 信頼される学校づくりの推進 ～地域に愛され保護者に信頼される学校をめざす～</p>	<p>① 潮来市唯一の高校として「地域と共にある学校」を理念とし、地域との繋がりを重視する。</p> <p>② 保護者や地域の方との信頼関係構築をめざし、学校公開や地域の行事を大切にする。</p> <p>③ HPの更新・閲覧回数を昨年度以上に増やし、プレスリリースを月1回行う。</p>	
	<p>6 働き方改革の推進 ～業務の効率化で生まれる心身の余裕を生徒との触れ合いの時間につなげる～</p>	<p>① ベテラン・中堅・若手でチームをつくり、スキルを組織的に継承し、業務の効率化を図る。</p> <p>② 月45時間超過の教員がゼロになるよう業務改善・教員の意識改革に取り組む。</p> <p>③ 働き方改革で生み出された心身の余裕を生徒とのコミュニケーションの場につなげる。</p>	
	<p>7 授業改善 ～授業を通して探究心や自立心を育む～</p>	<p>① 授業の目標や課題を設定し、ICTを活用するなど教え方の工夫を図る。</p> <p>② 授業中の生徒の学習の様子を観察し、適切な助言・励ましを行う。</p> <p>③ 授業を通して、探究心や自立心（自ら学ぶ意欲）を高めることをめざす。</p> <p>④ アンケートの授業に関する全項目で満足度87%以上をめざす。</p>	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への 主な課題
国語科	基礎学力の定着を図る。	必要に応じてICT機器も活用しつつ基礎・基本をおさえた学習内容の定着を図る。		
	社会で通用する国語力が身に付く授業を心掛ける。	適性・進路希望に応じた課外授業等や家庭学習についても工夫しながら指導する。		
		漢字や日本語に対する関心を高め、適切な話し方、丁寧な筆記、聞き方、表現力を養う活動を取り入れた授業を実践する。		
	社会や人間関係についても話題にしなが、教材を丁寧に扱い、自己研鑽や成長を志向する姿勢、責務を果たす姿勢を養う。			
	読書習慣の定着を目指す。	教務部図書館担当と連携し、読書や図書館利用を奨励する。		

別紙様式 2 (高)

地歴公民科	基礎学力の向上を図り社会的事象に対して興味・関心を持たせる。	電子黒板を積極的に活用し、「わかる」授業の充実を図る。		
		地図や副教材などの資料を通して、社会的事象に興味・関心を持てる授業を実践する。		
		各種研修会に参加して情報を収集し、生徒に還元していくことに努める。		
数学科	基礎基本の定着を図る。	基本的な計算の問題演習プリント等を通して基礎力を養成し、定期考査で定着の度合いを測り、指導に反映していく。		
		適宜、課題を出すことで家庭学習の定着を促す。		
		定期考査不振者に対して補講を実施し、学力の底上げをしていく。		
	「わかる授業」への改善に努める。	ICT機器を活用した授業展開について、研鑽を深める。		
		数学科各教員が幅広く生徒の指導に関わっていくように協力しながら進めていく。		
		提出物等で生徒の理解を測り、授業に反映していく。		
	目的に合わせた個別指導の充実を図る。	各種研修会に参加し自己研鑽をするとともに、教科内で情報共有を図る。		
進学・就職に数学を必要とする生徒に対応した個別指導を随時行う。 希望者対象の課外授業を実施し、資質・能力をさらに伸ばしていく。				
理科	生徒の実態を踏まえた指導を行い、基礎学力の定着を図る。	生徒がつまづくポイントを把握し、復習を十分に行うことで、「分かる授業」を行う。		
		ノートやレポート等を提出する機会を設定し、授業に対する取り組みを適切に評価する。		
	自然や科学に対する興味・関心を育む。	小テストやアンケート、振り返りを随時実施し、学力の定着状況を正確に確認する。		
		実験・演示実験だけでなく ICT 機器を適切に活用し、生徒が自発的に自然科学の現象に関心を持てるような指導を行う。		
実験・観察に主体的に取り組む態度を育てる。	各実験の目的を理解しながら主体的な活動が行えるようきめ細かい指導を行う。			
	教科内での授業見学や TT を積極的に導入して充実した授業体制の推進に努める。			
保健体育科	生徒が主体的に学び、活動する態度を育成する。	時事的内容や視聴覚教材 (ICT 機器) を取り入れ、わかりやすい授業を展開する。		
		生徒一人一人の課題設定を明確にし、解決のための行動が取れるよう支援する。		
芸術科	生徒の実態を踏まえた魅力ある授業を通して、芸術を愛好する心情の育成に努める。	体育の授業だけでなく、体育の行事で集団行動を行うことにより、集団の中での自己の役割を理解させ、クラスや学校の一員であることを意識させる。		
		生徒の興味・関心にそった幅広い題材や実態に合わせた教材を取り上げることで、基礎的な知識や技能の定着を図る。		
英語科	生徒が主体的に取り組める課題設定を工夫する。	芸術を通じ豊かな人間性や社会性を育み生涯を通して芸術を愛好する心情や生きる力を育成する。		
		発表・展示の機会を積極的に設け、音楽・美術の横断的な鑑賞会を行うことで主体的・創造的な態度や表現する喜びを養う。		
	生徒の実態をふまえ、基礎基本の充実に努める。	ペアワークやグループワークなどによる「聞くこと・話すこと [やりとり・発表]」の活動を多く取り入れ、表現する力を育む。		
商業科	基礎学力の向上に努めるとともに資格取得を奨励する。	基礎基本となる英単語の小テストを定期的実施し、語彙力の定着を図る。		
		課外授業等を実施するとともに、会計・情報処理分野において TT で授業を行うことにより、学力向上を図る。		
	潮来市・上級学校・企業との高大連携事業を通して、郷土愛を深める。	生徒の柔軟なアイデアを活かしながら、上級学校の学生の科学的な分析を掛け合わせ、協力して魅力と説得力のある潮来市まちづくりの提案を行うことで、郷土愛を深める。		

## 別紙様式2 (高)

情報科	情報モラルやセキュリティの知識を身に付ける。	ネットワークセキュリティや情報モラルについての知識を身に付け、デジタル・シティズンシップの醸成を図る。			
	情報活用能力の定着に努める。	データ処理やプログラミングをはじめ、デジタルを活用した情報活用能力の育成を図る。			
家庭科	基本的知識・技術の定着を図る。	ICT機器を効果的に活用し、基本的知識と技術の定着を図る。 科内外で研修を行い、授業改善に取り組む。			
	選択コースの授業充実と資格取得に努める。	少人数によるきめ細かな指導を行い、各種検定の合格率の向上を目指す。 課題研究等の授業を通して、主体的に探究活動を行う姿勢を育てる。			
	家庭クラブの活性化に努める。	校内外の様々な活動に参加し、学年をこえた交流や他校との交流を深め、活動を活性化させる。 ホームプロジェクトを実施し、生徒自ら課題を発見し、解決する態度を育てる。			
	生徒の学習意欲及び基礎学力向上を図る。	年2回(6月と11月)の校内での授業公開を積極的に推進するとともに、研修会を実施し教員の指導力向上に努める。 ICT機器を有効に活用し、生徒の主体的・対話的で深い学びの実践に努める。 基礎学力を向上させ進路実現を果たすために、適切に課題等を与え家庭学習を勧める。			
教務部	学習指導体制の確立を図る。	成績不振者に対しては、学年・教科と連携しながら、長期休業中や考査前に補習を行う。 授業を大切にする意識を高める。学年と連携し、欠課時数等で指導を受ける生徒を少なくする。			
	図書館利用者数の増加を図り、活性化に努める。	国語科と協力し、新入生への図書オリエンテーションを実施し、授業での図書利用の支援を行う。 静かで明るい読書環境を整備したり、生徒の興味関心をひくテーマによる展示を行ったりすることで、利用者の増加をはかる。 購入図書希望アンケートを実施し、図書館の充実を図る。			
	広報活動を充実させ、本校への志願者数を増やす。	学校説明会や学校公開を充実させ、中学生や保護者、中学校の先生方に本校の魅力を伝える。 学校ホームページを効果的に活用し、積極的な情報発信を行う。			
	進路指導部	進路意識・職業観・勤労観の向上を図る。	適時に適切な進路行事を実施し、職業観・勤労観を向上させる(進路ガイダンス、進路講話、進路別バス見学会、職業人講話、進路希望調査、進路セミナー)。		
		キャリア教育を実践し職業観・勤労観を向上させ地域の人材を育成する。	インターンシップ、看護体験、職場見学、オープンキャンパス、地域ボランティア活動に参加し、キャリア・パスポートを活用して、職業観・勤労観の向上を図る。		
		基礎学力の向上と自己理解をめざす。	課外授業、模擬試験、適性検査、一般常識テスト、看護模試、秘書検定などを実施し、就職指導に加え進学指導にも力を注ぎ、進路実現能力の向上を図る。 丁寧な個別面談を通して、社会とのかかわり方を意識させ、進路目標を明確にする。		
学年・保護者との連携を図る。		就職進学説明会、各学年進路指導部員間の連携、保護者面談時の進路相談を実施する。 進路行事を学校ホームページへ掲載する。PTA会報へ進路状況を掲載する。			
生徒支援部	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	定期的に生徒指導集会を実施し、頭髪や服装の適正化等規範意識の向上を図る。 全教員が普段からの「声かけ」を行い、生徒との信頼関係を築く。			
	生命・身体の安全確保を基本とした生活支援を実践する。	登下校時の交通指導を実施し、交通事故防止を図る。 携帯・スマホ利用のルールとマナー遵守を促し、トラブルの未然防止に努める。 月毎に被害調査を実施し、生徒間トラブルの早期発見、対応を図る。			
	外部機関との連携を強化する。	地域の方からのご意見や連絡に真摯に対応し、速やかに行動する。 学警連や県東地区の生徒支援部と情報を共有して、生徒支援を実践する。			

別紙様式2 (高)

特別活動部	部活動の活性化を図る。	定期的な顧問会議の開催と各部顧問間での情報共有・共通理解を図る。		
		生徒会活動との連携を図り、部活動を活性化させるための活動を促進する。		
	ボランティア活動を奨励する。	多くの生徒がボランティア活動に参加できるように、各種ボランティアの案内・掲示と呼びかけを実施する。		
	生徒会役員の自発的活動を促進する。	生徒会による校外・校内での積極的な活動を促す。また各種委員会活動活性化を目指し、環境を整備する。		
渉外部	保護者と教職員が連携し、信頼される学校づくりに努める。	PTA 役員会等を通して連携を密にし、教育活動への理解と協力を得る。		
		保護者面談以外にも、学校公開やPTA総会など、保護者がより参加しやすい計画を立てる。		
	地域や関係機関との連携を図る。	PTA 広報誌や学校ホームページを活用して、学校の教育活動の様子を地域に積極的に公開する。		
		地域の関係機関と連携してマナーアップキャンペーンを実施する。		
保健安全部	生徒の健康管理や感染予防の意識を高める。	「保健だより」を毎月発行する。		
		ポスターを掲示したり資料を配付したりすることで、思春期特有の疾病や季節毎の感染症について理解させ、自身の健康について考える機会を増やす。		
		健康診断の受診率 100%を目指す。		
	防災・安全意識の向上と学習環境の整備を図る。	関係機関と連携した防災訓練を計画・実施する。		
		救急救命講習を計画し、緊急時に対応できる体制を整える。		
		学校内の設備点検や改善を行い安全な学習環境を整える。		
	教育相談を中心とした支援体制の充実を図る。	教育相談で得られた生徒情報を共有し、生徒のニーズに合わせた支援をする。		
		心理テストを実施、相談室だよりを発行して、生徒支援に活用する。		
校内の支援体制を整備し、保護者・中学校・外部関係機関との連携を図る。				
第一学年	基礎学力の定着を図り、主体的に学習活動を行う態度を育てる。	日々の授業を大切に、予習・復習を心掛け、主体的に学習に取り組む態度を養う。		
		課外授業や各種テストを奨励・実施し、基礎・基本学力の定着・向上を図る。		
	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	「あいさつ運動」を通して、自分から進んであいさつができる習慣を身につける。		
		時間厳守・生活リズムの確立等を柱に高校生らしい基本的な生活習慣を確立する。		
	積極的な資格取得・部活動参加を促す。	各種資格・検定を奨励・実施し、合格に向けての補講や課外を随時行う。		
		特別活動部・各部顧問と連携し、部活動への積極的な加入を推進する。		
	豊かな人間性と社会性を身に付けさせる。	学校行事やホームルーム活動への積極的な参加を通して、コミュニケーション能力の向上、豊かな人間性を育む。		
		「総合的な探究の時間」等を通して、郷土愛を深め、社会性・協調性を育む。		
	保護者・地域との連絡を密に取り、学校との信頼関係を構築する。	保護者との連絡・連携をスピーディーかつ密に行うことで、諸活動・問題の早期対応・解決に対応する。		
		学校諸活動の情報を積極的に保護者・地域に発信するとともに、地域のボランティア活動等の参加を通して、本校の教育活動への理解・協力を求める。		

別紙様式2 (高)

第二学年	基本的生活習慣を確立し規範意識の向上を図る。	学習環境を整え、互いに快適に過ごせるよう、清潔感のある身なりを心がけるなど、自己指導能力の育成を図る。		
		遅刻・欠席を減らし、計画的に行動する姿勢を身に付けさせる。		
	基礎学力の定着と進路意識の向上を図る。	落ち着いて主体的に授業に取り組む姿勢を養うとともに、家庭学習を奨励する。		
		定期考査や授業の課題に計画的に取り組む姿勢を身に付けさせる。		
		進路行事や課外授業、実力テストを実施し、自分の将来を考える機会を設ける。		
	社会性・協調性および個々の能力の伸長を目指す。	ホームルーム活動や学校行事に積極的に参加させ、社会性と協調性の向上を図る。		
		修学旅行や体育祭、球技大会などの集団活動を通して協調性を育むとともに、個々の能力の伸長を目指す。		
	保護者との連携を密にし、信頼関係を構築する。	学校生活において発生する生徒に関わる諸問題について、早期かつ迅速に学年全体で対応する。		
保護者との連絡・連携を密にし、本校の教育活動への理解と協力を求めるとともに、必要な場面では専門機関に迅速な協力を依頼する。				
第三学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	規範意識の向上と社会人としてのマナーを身につけさせ、清潔感のある身なりを心がけるなど、自己指導能力の育成を図る。		
		あいさつなどコミュニケーションを活性化し、互いを認め合い、協力しあえる関係づくりを促す。		
		登校時間・授業時間を厳守させるとともに、時間を大切に使う・効果的に使うことの大切さを伝え、遅刻指導を強化する。		
	基礎学力の定着と進路意識の向上を図る。	授業を大切にし、教え合う活動や発表の場を準備し、生徒が主体的に取り組む姿勢を養う。		
		自分で考え、その考えを共有しあう姿勢やプレゼンテーション力のさらなる強化に努める。		
		各種資格・検定の案内を随時行い、積極的に取得させる。		
	進路指導の充実、全生徒の進路希望を実現させる。	課外授業や一般常識テストを実施して、基礎学力のさらなる定着を図る。		
		進路指導部と連携し、進路説明会、模擬面接、志望理由書や履歴書指導等を数多く実施する。		
		オープンキャンパス、体験学習、会社見学に積極的に参加させる。		
	保護者との連携を図り信頼関係を構築する。	進路相談の個別指導を適宜実施し、各生徒の進路実現を促す。必要に応じて保護者を交えて行う。		
		保護者との連絡・連携を密にし、課題に対して早期に学年でチームとして対応する。		
		確実な情報伝達のための工夫をするとともに、保護者の要望や意見に対しては丁寧に対応し、学校教育への協力を求める。また、必要に応じて家庭訪問を行う。		

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できてない